

システム名：特定ラジオマイク

回答作成者：五味 貞博

1. 所要帯域幅（1システムの場合とシステム全体での幅）

連続した周波数帯幅が必要か、もしくは間が空いていてもよいのか。

回答：出来る限り連続した帯域が必要

理由：

- 現行は連続して 36MHz 利用しているが、ユーザーからの要望等から現行以上の利用を確保するには連続した周波数の場合 36MHz+イヤーマニター分以上の帯域が必要
- 隣接する帯域を別のシステムが使用している場合、隣接する帯域を使用するシステムとの干渉を避けるために、利用できない周波数が発生する可能性が高く、その分、使用本数が制限され利用効率が下がるため。
- ラジオマイクの使用周波数帯域幅が、用途により複数想定され（高音質・低遅延用途：広帯域、収容台数優先用途：狭帯域、が混在する可能性があり、帯域をフレキシビリティ、有効に使用する必要がある。

2. UHF帯の中で、特に利用を希望する周波数帯があるか。

回答：高めの周波数帯を希望する

理由：現状の 770MHz～806MHz と大幅に異なる周波数では、回路インピーダンスや伝搬特性が異なるため、回路設計および現場の受信アンテナ設置場所などを大幅に変更する必要性が高くなるため。

3. 放送エリアまたは通信距離（送信電力）

回答：50mW

理由：通常の屋内使用では、半径 30m～60m で、ほぼ満足できるが、大型ホール、スタジアム、球場などでは、100m 以上の到達距離が必要なため。

4. 既存システム（地上デジタルテレビジョン放送）に混信を与えないための対策

回答：

- 周波数リパック等の情報ができるだけ即時にわかり、かつ既存システム（地上デジタルテレビジョン放送）に対する与干渉がないエリアを明示する地デジ使用チャネルマップあるいはデータベースの提供およびそれに基づくエリアの運用調整（既存の特定ラジオマイク連盟等）

理由：送信開始する前に干渉を起こさない周波数帯を確認する手段が必要。
使用場所の利用可能チャンネルの情報を提供する運用調整などで、正しい情報の確保が必要

5. ホワイトスペース利用システム間での混信防止のための対策

回答：

- 他システムの使用チャンネルがわかるマップあるいはデータベースの参照
- 特にラジオマイクは時限運用等が想定されるため、他のホワイトスペース利用システムからの干渉を避けるため他のホワイトスペース利用システムにおいてキャリアセンスを行った後のチャンネル設定が必要。
- 特に高出力の他のホワイトスペースシステムは、特定ラジオマイク連盟のような運用調整機関が必要。

理由：送信開始する前に干渉を起こさない周波数帯を確認する手段が必要。
使用場所の利用可能チャンネルの情報を提供する運用調整などで、正しい情報の確保が必要

6. 万が一混信の発生などのトラブルがあった場合の周波数変更等の対応（運用調整）方法

回答：トラブル発生時には、送信停止、チャンネル変更の処置を講じる。

理由：現行のアナログの製品でも同様の処置を実施している。

以上